《京都》御所と離宮の栞（しおり）

其の二

― 京　都　御　所 ―

紫宸殿の錣（しころ）屋根　観 般

紫宸殿正面（南庭側）

紫宸殿北側

内裏の正殿である紫宸殿は，東西約33メートル，南北約23メートル（簀の子縁を除く），屋根は東西約44メートル，南北33メートルにも及ぶ大きな建物で，即位礼をはじめとする儀式に使われました。正面中央に十八段の階段があり，その東に左近の桜，西に右近の橘が植えられています。

紫宸殿の屋根は，桧皮葺きで入母屋造りですが，よく見ると途中で段差がついています。この屋根形状は兜（かぶと）などの錣（しころ）（兜の左右と後方に垂らす首の防御の部分）が付いているのに似ていることから「錣（しころ）屋根」とよばれています。珍しい形式ですが，古い例では法隆寺の玉虫厨子があります。

屋根には五本の縦筋が見えます（左記写真参照）が，屋根上で作業する時に使用する力鎖（ちからぐさり）と，雷を受けたときに電流を流すためのアース線がここにあります。

外マークは，御所・離宮の外側から，いつでもご覧になれます。

観マークは，参観でご覧になれます。　申込み方法は，参観要領 - 京都御所 (kunaicho.go.jp) をご覧ください。

般マークは，春と秋には申込みが必要のない一般公開の際にご覧になれます。下記にて日程等をご確認くださいますようお願いします。特別公開など - 宮内庁 (kunaicho.go.jp)

内マークは，通常公開していない場所にあります。

御常御殿の御内庭（おつねごてん　ごないてい）

観殿

徳川慶喜献上の陶器雪見灯籠　三代清水六兵衛作

御常御殿（おつねごてん）の東に遣水（やりみず）の庭があり，これを御内庭（ごないてい）といいます。数々の土橋・板橋・石橋や飛石が配置され，特に天皇のお好みを取り入れた庭です。また，御庭を回遊式庭園のように自由に散策できる趣向になっています。

御内庭は，宝永度の内裏（宝永6年<1706年>造営）以降取り入れられ，現在の御庭は，安政末から明治初年にかけて手が加えれられており，樹木，自然石，灯籠などの多くは，献上品です。

若宮御殿の障壁画「唐子遊（からこあそび）」

写真は京都御所北側にある，若宮御殿三の間の障壁画「唐子遊（からこあそび）」です。若宮御殿は明治天皇がご幼少の頃過ごされた場所で，三の間は15畳，この他に上段の間，次の間，二の間があり計44畳の広さがあります。

唐子遊の筆者は，栢友篤（かしわゆうとく）という京町絵師です。部屋の四方計16面の襖に，囲碁をする子供，大きな花車を引く子供など様々な子供が描かれています。唐子遊は，よく用いられる画題のひとつで，中国風の髪形や服装をした児童が遊ぶさまを画いたものです。京都御所には他に杉戸絵に画かれたものが御車寄廊下にあります（吉田元鎮（よしだげんちん）画）。

御車寄廊下の杉戸絵「唐子遊」吉田元鎮画

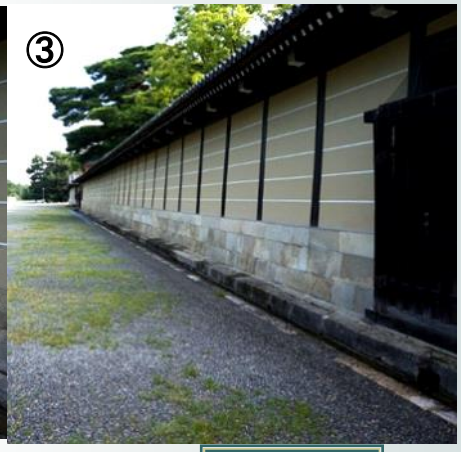
若宮御殿は普段公開していませんが，今秋の京都御所一般公開（10月31日(水)～11月4日(日)）にて，この障壁画の一部を展示いたします。

今年は明治天皇崩御100年，そして御生誕160年目にあたるため，今秋の一般公開はこれらに因み，明治天皇がご幼少の時から明治初年までこの京都御所でお過ごしになられた様子に関連した展示をします。

築地塀（ついじべい）の石積み 外

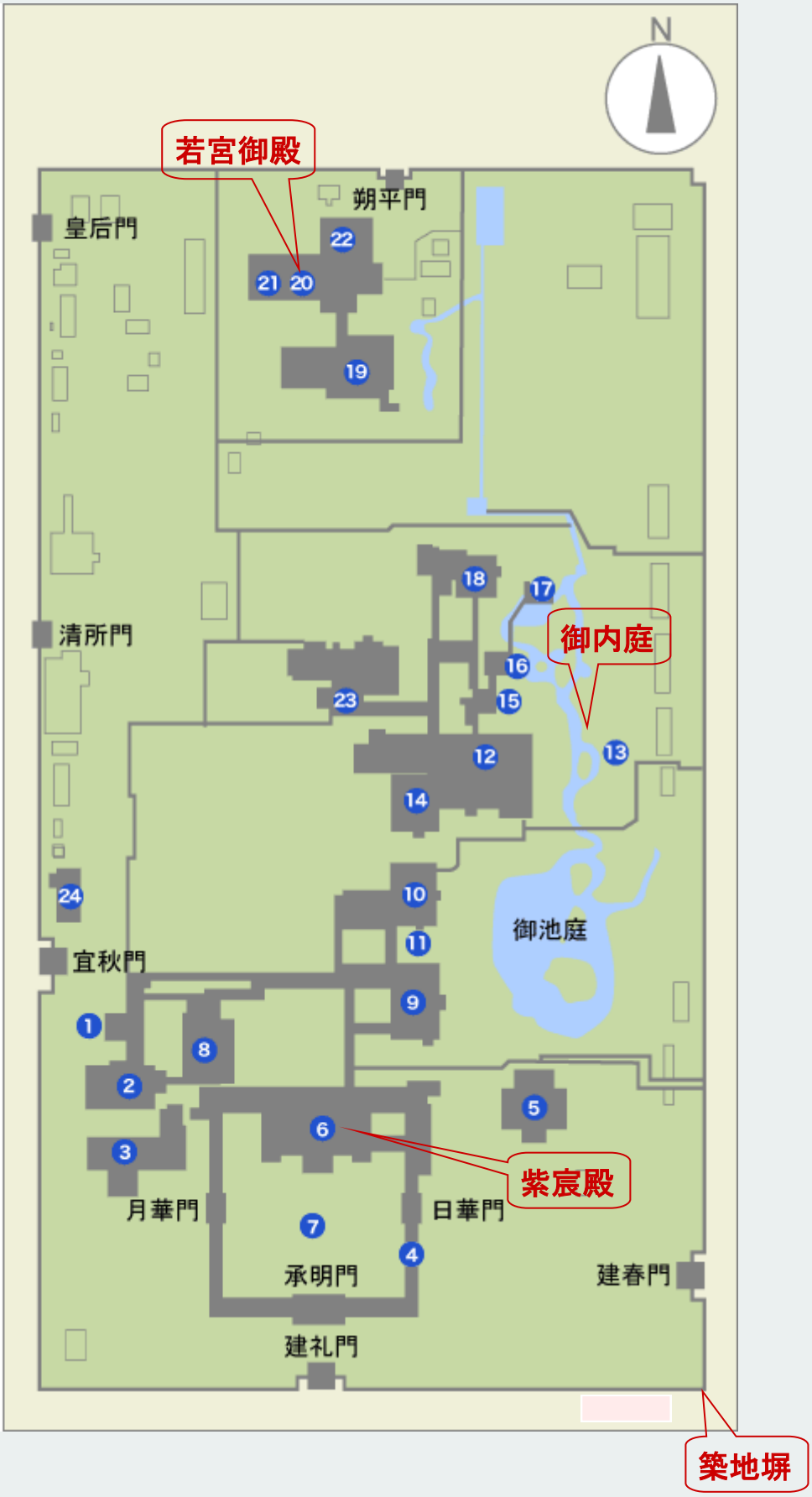
京都御所は南北約450メートル，東西約250メートルの築地塀（ついじべい）によって囲まれています。上記の写真は，京都御所の南側にある建礼門（けんれいもん）（写真左）と北側にある朔平門（さくへいもん）（写真右）です。門としての作りはほぼ同じではありますが，一見して大きな違いがあります。それは門の脇にある築地塀の石積みの高さです。

京都市内は東，西，北を山々に囲まれた盆地で，南に行くほど標高が低くなります。京都御所北側外と南側外では，標高差が2.4メートルあります。その傾斜をなだらかにするため，南側では，1.5メートルの石積みがあるのです。敷地内では土地の傾きを気にすることなく，しかし御溝水（みかわみず）や池の流れは自然に南側へと流れるようにと，そこには京都という土地にある御所ならではの，技術の歴史が息づいています。



京都御所

1. 御車寄
2. 諸大夫の間
3. 新御車寄
4. 回廊
5. 春興殿
6. 紫宸殿
7. 南庭
8. 清涼殿
9. 小御所
10. 御学問所
11. 蹴鞠の庭
12. 御常御殿
13. 御内庭
14. 御三間
15. 迎春
16. 御涼所
17. 聴雪
18. 御花御殿
19. 皇后宮常御殿
20. 若宮御殿
21. 姫宮御殿
22. 飛香舎
23. 参内殿
24. 参観者休所



― 修 学 院 離 宮 ―

大刈込（おおかりこみ） 観

修学院離宮の上離宮には浴龍池（よくりゅうち）という名前の大きな池があります。谷を人工の堤防でせき止めて作った池ですが，その堤防は大刈込と，生垣によって覆われています。大刈込とは，多数の樹木を混植して，大きなひとつの形になるように刈り込んだものです。修学院離宮では浴龍池の堤の最上部からなだらかに下がってくる部分（写真①）と隣雲亭に上がる石段の両側を覆っている植え込み（写真③）で使われ，約40種類の樹木を混植しています。

大刈込を刈り込むときは，打ち鎌（うちがま）と呼ぶ特殊な刃物（写真②）を使います。打ち鎌は約1mの柄に15cm程度のナイフのような刃物が付いた道具で，職人がそれぞれ使いやすいように工夫しているので，各自の道具は微妙に形状が異なります。この道具を使ってなぎ払うようにして豪快に刈り込む様子は修学院離宮ならではの光景です。

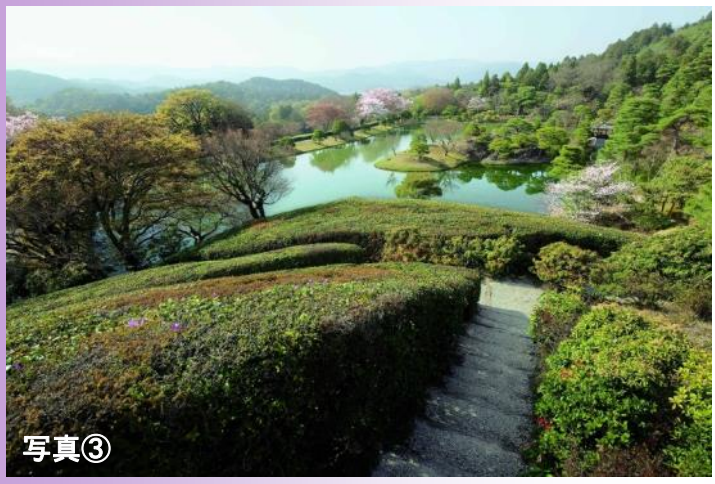
刈り込み作業の時期　1回目　　7月下旬～　8月上旬

　　2回目　10月下旬～11月上旬

※　新芽の伸長状況により，多少前後する場合があります。

写真①

写真②



写真③

下離宮　寿月観の障壁画「虎渓三笑」

虎渓三笑図　岸駒　（京都事務所保存のものを撮影）

下離宮　寿月観の一の間は，後水尾上皇がおいでになった時の御居間で，畳3畳を敷いて一段高くなった所が御座所になります。ここでご休息になり，ここから畦道を通り，棚田を御覧になりながら上離宮へお越しになり，ご清遊されました。現在の寿月観は文政7年（1824年）光格上皇時代に旧規のまま再建されたものです。

一の間には，江戸後期の画家・岸駒の作と伝えられる「虎渓三笑」の襖絵があります。（襖絵は昭和25年に模写のものに入れ替え，現品は別に保存しております。）

襖絵の題材となった虎渓三笑とは，中国の廬山にある東林寺に隠棲していた慧遠という高僧が、寺の下にある谷川「虎渓」をけっして渡らないと誓いをたてていたにもかかわらず、友人の陶淵明と陸修静を送る道すがら話に夢中になってしまい、気付くと虎渓を通り過ぎており、三人で大笑いしたという中国の故事で，中国・日本の画題として好まれました。

上離宮の御成門（おなりもん）　観

下離宮から，棚田を横目に松並木を登っていくと目の前に広場があらわれ，正面の木立の下に上離宮の表門にあたる御成門（おなりもん）が待ち受けます。柿葺（こけらぶ）きの屋根，扉付きの木の門で欄間には花菱模様の透かし彫りが施してあります。平成23年度には柿葺屋根（こけらぶき）の葺替えや，御成門の両側に控える木賊塀（とくさべい）の竹を張り替えました。

上離宮 御成門欄間の花菱模様の透かし彫

下離宮 御幸門扉の花菱模様の透かし彫り

上離宮の御成門欄間や下離宮の御幸門（みゆきもん）扉など花菱模様の透かし彫りが施されていますが，この他にも修学院離宮には，菱形を使った模様が多数使用されています。

＜問い合わせ先＞
〒602-8611　京都市上京区京都御苑３
宮内庁京都事務所　代表電話：075-211-1211
参観係直通電話：075-211-1215

其の二：平成24年10月24日発行
次回の発行は平成25年1月頃を予定しています。